

## 函館市観光基本計画（案）に関する策定検討委員会の 意見反映について

### 1 文章や語句に関する修正

No.	意見等	対応
P5	「人口減少による産業の活力低下, 担い手不足」の人口のデータについて, 「いずれも日本人のみ」という記載があるが, 担い手の中には外国人も含まれるため, 様々な人を巻き込んでいくということを考慮すると, 日本人に限定するような表現はしない方が良い。	当該箇所を削除しました。
P5	クルーズ客船に関する記述を加えるべき。	文章の追加および入港実績の推移表を挿入しました。
P7	「訪日外国人観光客の誘客などによる繁閑差是正の取組み」の中で, 繁閑差の説明をしているが, 「上半期が多い」というだけでは説明不足に感じる。	文章を追加し修正しました。
P8	「観光消費を財源に都市機能を整備」とあるが, 整備するのか。	「観光消費による都市機能の充実」と記載を修正しました。
P12	見やすくするため, 「はじめに」の部分にハッシュタグ等をつける。キーワードだけでもつけるような手法も考えられる。	本計画での採用は見送りました。
P12	方針の考え方にある「持続可能な観光地づくり」がどの施策と対応しているか分からないため, 明示した方が良い。 裨益（ひえき）という言葉は一般的でないことから言い換えるべき。	対応関係については, 方針の考え方にアルファベットの見出し記号を付けた上で, 色で分類し, 施策には対応する見出し記号を表示することで対応しました。 なお, 単語の指摘を受けたところですが, 文章全体が長く, わかりにくいと判断し, 本計画に則した記載に直しました。

P15	<p>「富裕層の誘客に向けた観光プログラムの造成，磨き上げ等を進める」の中で説明している富裕層のニーズについては，根拠・引用元を記載すべき。 (その他引用している箇所も同様)</p>	<p>注釈を作成しました。出典元は下記の資料で，この資料の中から当該キーワードを作成したものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■日本政府観光局「富裕旅行市場の分析とコンテンツづくりのポイント」 <a href="https://www.jnto.go.jp/projects/regional-support/news/2129.html">https://www.jnto.go.jp/projects/regional-support/news/2129.html</a></li> <li>■日本政府観光局「富裕旅行市場に向けた取組について」 <a href="https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001366730.pdf">https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001366730.pdf</a></li> <li>■日本政府観光局「地域の資源を活かすアドベンチャーツーリズム①」 <a href="https://www.jnto.go.jp/projects/regional-support/news/2788.html">https://www.jnto.go.jp/projects/regional-support/news/2788.html</a></li> </ul> <p>上記の日本政府観光局による資料を参考に，ATとの親和性が高く，近年増加している Modern Luxury (20～30代中心の新型ラグジュアリー志向)，Selective Luxury (優先度の高い事項に重点的に投資する) の特徴として挙げられているものをピックアップしています。</p>
P16 P17	<p>「函館観光の利便性を高める取組み」，「誰もが安心して訪れることができる観光地を目指す」の表現の見直し。</p>	<p>アンケート調査などからの観光客の声や，UD受け入れ体制の対応の遅れなどはネガティブな表現ではありますが，今後の取組みの必要性を強く示唆するためには必要と考えて修正はしていません。</p>

P18	<p>基本方針1の目標値について、平均宿泊数だけだと市民や他産業の事業者には関係がないように思われるため、平均宿泊数を増加させることで観光消費額が増えること、観光消費額の増加は一見無関係な他の産業の売上も増やすこと、これにより、より多くの市民を潤していくということを説明し、観光事業者以外の人にとっても関係があるということを表現すべき。</p>	<p>文章を追記し修正しました。</p>
P19	<p>基本方針2について、繁閑差の説明については平準化指数の数値の意味合いをもう少し見える化すべき。例えば、施策に掲げた「インバウンド」、「イベント」、「教育旅行」毎に平準化指数を算出し、各市を比較するなど。</p> <p>もう少し情報があるといい。例えば、上記3つで都市を比較して、この都市はこういったことで優れているとか。</p>	<p>分析を追加しました。以下が要旨です。</p> <p>○外国人観光客について 北海道の傾向（地域的な傾向）として、冬季に訪日外国人観光客が多く、この傾向は繁閑差が少ない道内都市においても同様であり、函館市においても、日本人観光客が減少する中、誘致に力を入れる必要がある。</p> <p>○教育旅行 全国を見ても、10月～12月に修学旅行が催行された実績があり、10月～11月にかけては、当市への誘客の余地があると考えられる。</p>
P24	<p>基本方針3について、読んだ時に市民がすべきことのイメージがわからない。市民がすべき取組の例示や過去の優れた取組を掲載してはどうか。</p> <p>また、優れた取組を広めることは応援する人を増やすことに繋がる。今後、グッドプラクティスの定期的な公表もあると良い。頑張っている人をPRする。</p>	<p>市民の活動の事例として、下記の写真の掲載と説明を追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光ガイド</li> <li>・クルーズ船のおもてなし</li> <li>・新道の花いっぱい運動</li> </ul>
全般	<p>観光は社会情勢の影響を受けやすく、それに合わせ、柔軟に対応する必要があるということは伝わってくるが、反面、観光都市函館をこれまで支え続けてきたものは何か、守っていかなければならないものは何</p>	<p>現在継続されている取組の中から代表的なものを、写真の挿入と説明書きにより、グッドプラクティスとして掲載しました。</p>

	か分かりにくい。「今のままでいい」という部分も同時に示した方が、関係者の意欲喚起に繋がるのではないか。	
全般	事業者にとって、この計画を自分事として捉えられる表現、施策の書き方をされたい。	今後、計画の趣旨、あるべき姿や理念について、積極的に観光関連事業者へ発信することで対応したいと思います。
全般	用語の統一がされていない箇所が複数あるため修正されたい。また、カタカナ語が多用されているため、読み手によって理解が異なるように、用語については再確認をお願いしたい。	<p>以下の用語について、用語の統一や用語解説を追加しました。</p> <p>○用語解説</p> <p>サステナブル、ニーズ、コンテンツ、アクティビティ、プロモーション、Wi-Fi、SNS、聖地巡礼、グリーンツーリズム、ニセコエリア</p> <p>※「ニセコエリア」については、同地域の団体であるニセコプロモーションボードやニセコ観光圏などの複数のWEBページで使われていることから、そのまま採用することとし、用語解説に加えました。</p> <p>○用語の統一</p> <p>・訪日外国人観光客： 「インバウンド」や「海外観光客」、「外国人観光客」などを、「訪日外国人観光客」に統一。但し、統計データ等を基に作成したグラフ上の表記や引用の文章については、引用元の語句を使用しました。</p> <p>・観光ガイド： 「ガイド」としての表記もあり「観光ガイド」に統一しました。</p> <p>・ボランティア： 観光ガイドも含み、様々な活動が入っているので、観光ガイドよりも広い概念として位置づけています。</p>

		○言い換えによる削除 ・ポテンシャル： 「可能性」に言い換えました。
P13 P17 用語 解説	用語の解説の「LGBTQ+」の説明で、トランスジェンダーを「自認する性別と身体上の性別が一致しない」と表現しているが、現在は「身体上」ではなく「法律上の性」、「割り当てられた性」という表現を使うことが多くなっている。表現は市民部とすり合わせた方が良い。	市民部男女共同参画課に確認し、修正しました。 用語としては「LGBTQ+」の標記を「性的少数者」とすることとし、用語解説なども併せて修正しました。

## 2 デザインに関する修正

No.	意見等	対応
表紙	表紙のデザインは、一目見て計画の中身が伝わるような、メッセージ性やインパクトを持たせるべき。具体的には、基本理念の文言の掲載、基本理念の「照らす」というイメージやバラエティに富んだ観光資源を表現する画像を使用するなど。見てわくわくする写真、明るくなっている、人物があるといい。	表紙に基本理念の文言を追加しました。使用する画像は、「函館を照らす」というイメージから、函館山から街を俯瞰した画像と観光資源の画像を組み合わせました。
P10	重要な部分は、もう少し文字を大きくした方が良い。	文字の大きさや色などで重要な部分を強調表示してデザインしました。
P10	「照らす」という意味合いを表現するため、青ではなく明るい色味を使うべき。	計画全体のデザインとして、水色を基調としておりますが、基本理念については黄色で表現しました。
P11	経済波及効果図について、基本理念との繋がりを表現できるような掲載箇所を検討されたい。中央部が大きく表現されているが、一番重要なのは、ページ下部の函館市内で働く従業員とその家族であるため、ここを大きく表現すべき。色味が与えるイメージについても留意してほしい。 縦で表現されているが、8ページの図は横	掲載箇所は基本理念の次ページとし、イメージ図の表現については、ご意見を参考に修正を加えました。

	で表現されている。関連性を表現するため、色味も含めデザインを統一した方が良い。	
全般	公的な文書であるため、色などの表現については、ユニバーサルデザインの観点からも検討されたい。	色覚異常を持った方にも読みやすいように、明度・色数を配慮して配色しました。 また、幅広い方々が文章を読みやすくなるよう、一部の見出しやデザイン的にメリハリをつける部分を除き、ユニバーサルデザインに対応したフォントを本文に使用しました。